

角田市震災復旧・復興市民会議（第1回）議事要旨

1 日時：平成23年5月31日（火） 午後3時30分～午後5時15分

2 会場：市役所東庁舎 301会議室

3 出席者

（構成員）

本 田 敏 昭	角田市議会議員
遠 藤 昭 助	角田市行政区長連絡協議会会長
天 野 忠 正	角田市商工会会長（代理出席者 山並千秋）
本 郷 茂 義	角田市観光物産協会事務局長
戸 村 真喜夫	みやぎ仙南農協角田地区本部長
星 文 和	角田市教育委員会委員長
笹 森 紀 男	角田市医師会会長
吉 田 克 哉	角田市社会福祉協議会会長
本 田 貴 志	アルプス電気(株)角田工場管理課長
小 鴨 圭 吾	角田市文化協会会長
佐 藤 忠 義	建築士会角田伊具支部長
荒 井 秀 一	前角田市長期総合計画審議会委員
斎 藤 栄 子	前角田市長期総合計画審議会委員
宮 崎 三枝子	前角田市長期総合計画審議会委員

大 友 喜 助	角田市長
小 野 隆 男	角田市副市長
木 村 伸 一	角田市総務部長

（事務局）

島 津 健 一	角田市総務部政策企画課長
油 井 政 之	角田市総務部防災安全課長
泉 隆 司	角田市総務部政策企画課長補佐
玉 淵 和 紀	角田市総務部政策企画課政策調整係長

4 報告事項

- ・東日本大震災にかかる本市の被害状況について

5 協議事項

- ・角田市震災復旧・復興基本方針(案)について

●市長あいさつ（～15時35分）

震災後2カ月半が過ぎ、角田市では大分落ち着いてきていて、田植えなども終わった。しかし、沿岸部ではガレキがまだまだあり難儀している。これから雨の時期を迎え、川の氾濫を心配しているが、阿武隈川堤も震災により現在仮復旧の作業を国ではしていて、本復旧には、3年を要すると確認している。

本市の被災は、後ほど事務局から詳細説明があるが、下水道、道路などのほか、社会教育施設も大きく被災している。特に市民センターは、財源の問題をクリアしながら、なんとかしていきたいし、加えて、庁舎各階の連絡通路の不通をエレベーター設置を念頭に改修していきたいとも考えている。とにかく、忌憚のないご意見を願いたい。

●報告事項は、油井防災安全課長から説明。特に質疑等なし。（～16時）

●協議は、泉政策企画課長補佐から説明。意見・質疑等は、以下のとおり。（～17時15分）

- **資料2**の5頁にある「災害に強いまちづくり」について、どのような災害を想定しているのかわからない。具体的に明記して、その内容により計画があるべきである。計画に盛り込むべき内容で最も重要なのは、避難手順を具体的に記載することと考える。
- 子供達の発表の場が失われた。発表の場は子供達を前向きにさせる。また、経済活性化にもつながる。是非、市民センターを何とか復活してほしい。（⇒市長：財源の目途をつけ、できるだけ早く対応を考えたい。）
- 建築士会として、応急危険度調査や罹災証明調査をお手伝いした。千年に1度の地震があったように、千年に1度の大雨があるかもしれない。そういったことに目を向け水害に対する備えが必要である。人命と併せて企業に対する備えが必要であると考え。また、現在角田市に避難している他市町の住民が角田に根を下ろすような施策も検討すべきであると思う。
- 市民センターは是非何とか（使用できるように）してほしい。
体育館の修繕も急いでほしい。（⇒市長：700万円程度の改修費と想定しているが、できるだけ国の助成をもらいながらと考えている。7月末までには、改修完了の見込み。）
阿武隈川堤の処置の内容の情報を是非市民に流してほしい。（⇒市長：そのようにする。）
- 今回の震災を受け、地域防災組織の重要性を感じた。本来必要なものが備わってな

かった。例えば、「発電機はあるが、ガソリンがない」など。活動の具体的中身が必要であると痛感した。

- 生活者の目線でみると、特に高齢者の行き場がないと思えた。防災組織の在り方も考え直す必要があると思った。若い夫婦は、(食糧備蓄などの)備えがない。小粒大豆を使った角田市非常食を作る考えが良い。
- ガソリンがなかったことには苦慮した。
- 非常の場合の判断をどうすべきかが大切である。逆にいえば、そういった訓練が必要となる。また、下水マンホール付近の砂利道が時間が経ち大分欠損し危なくなっている。何とかしたほうが良い。(⇒市長：明日には、担当と打合せをする手はずとなっている。)
- 基本方針としては大分練られた感じがする。まちづくりとタイアップし進めてほしい。給食センターは、何とか無事であったが、今後を考慮すると是非しっかりとした施設に改築してほしい。既に発言されているが、洪水対策についてはよく考えた方が良く考える。
- 復旧・復興は、「金」がかかる。それが事実もつともなこと。亘理・山元には、角田市で農業をしたがっている方もいる。二重債務の問題もあるがそのことを念頭において対策も必要。今後「ゲリラ豪雨」も心配である。
- 阿武隈川堤の決壊を想定したシミュレーションとそれに対する対策が必要である。この震災では、最初に「水」、次に「ガソリン」が問題だった。消防団員が少ないとも感じた。
- 放射能の問題が今は大きい。市民はそのことに不安を覚えている。私は、広島原爆のことを思うと今の事態は大したことはないと感じている。是非改めて市民に具体的内容を示し、不安を終息されるための対応をしてほしい。
- 市民等の要望を良く分かっているのは、あの時涙しながら窓口対応をした職員である。職員のアンケートを実施すべきと思う。角田市と沿岸部では、今では震災対応に温度差が出てきている。広域的な対応をしていくべきとも考える。ガレキの処理は、仙南広域で予定しているごみ焼却施設建設を前倒しし、ガレキ処分の対応にも使うなど。
- その他 島津政策企画課長から、6月4日(土)に「放射線と健康」と題して講演会を開催する旨紹介をした。また、次回は、6月末を予定している旨お知らせした。